

劇場版「空の境界」未来福音

●同時上映「劇場版「空の境界」未来福音 extra chorus」
●9月28日より、テアトル新宿、ディノスシネマズ札幌劇場、109シネマズ名古屋、シネ・リーブル梅田、ufotable CINEMA、T・ジョイ博多ほかにて公開
●公開劇場にて全国共通特別鑑賞券(税込1500円、特典＝B2ポスター)発売中

WEB▶http://www.karanokyoukai.com/

Illustrated by TAKUYA AOKI, finished by KAHO ENDO(STUDIO ROAD)
composited by ufotable
text by HIDEKUNI SHIDA, MAYUKO UEDA(P. Nineteen)
[illegible]

STAFF 【劇場版「空の境界」未来福音】 原作＝奈須きのこ 監督＝須藤友徳 キャラクター原案＝武内崇 脚本＝桧山彬(ufotable) キャラクターデザイン・作画監督＝須藤友徳 [illegible] 美術監督＝[illegible] 色彩設計＝千葉絵美 撮影監督＝寺尾優一 音楽＝梶浦由記 主題歌＝Kalafina 音響監督＝岩浪美和 アニメーション制作＝ufotable 製作＝劇場版「空の境界」製作委員会 配給＝アニプレックス 【劇場版「空の境界」未来福音 extra chorus】 原作＝奈須きのこ/武内崇 監督＝あおきえい キャラクター原案＝武内崇 キャラクターデザイン・作画監督＝須藤友徳、[illegible] 美術監督＝海老沢一男 色彩設計＝千葉絵美 撮影監督＝寺尾優一 音楽＝梶浦由記 音響監督＝岩浪美和 アニメーション制作＝ufotable 製作＝劇場版「空の境界」製作委員会 配給＝アニプレックス

CAST 【劇場版「空の境界」未来福音】 両儀式＝坂本真綾 黒桐幹也＝鈴村健一 蒼崎橙子＝本田貴子 瀬尾静音＝井口裕香 [illegible] 【劇場版「空の境界」未来福音 extra chorus】 両儀式＝坂本真綾 黒桐幹也＝鈴村健一 蒼崎橙子＝本田貴子 [illegible]

両儀式
[illegible]

蒼崎橙子
[illegible]

黒桐幹也
[illegible]

瀬尾静音
[illegible]

これは11人の人間が語ったある伝説への証言。
生と死、光と闇、静と動――その間。
すべてと一部、本質と現象――その断片。
始まりは15年前、まだ世に名前を知られていない
青年2人が、ひとつの物語をつづった。
そのタイトルは「空の境界」。
奈須きのこが書いた「言葉」と武内崇が描いた「絵」は
静かに語り継がれ、やがて商業出版化を果たした。
その作品にほれ込んだ、岩上敦宏と近藤光が
前代未聞の劇場版七部作アニメ化を企画。
2007年12月1日深夜、劇場版「空の境界」は
東京新宿にある映画館で公開を果たした。
主人公・黒桐幹也を演じるのは鈴村健一。
ヒロイン・両儀式を演じるのは坂本真綾。
キャラクターデザインを担当したのは須藤友徳。
音楽を担当したのは梶浦由記。
「第一章 俯瞰風景」の監督をしたのはあおきえい。
その全スタッフが愛情を注ぎ込んだ作品は、
2010年「終章」の公開によって大団円を迎えた。
しかし、伝説はそこで終わらない。
ひとつだけ映像化されていない物語がある。
第五章公開時に、作品の出来栄えに心を動かした
奈須きのこと武内崇が10年ぶりに描き下ろした
新たな「空の境界」の物語。
[illegible]を迎えて「これまで[illegible]」
それが「未来福音」という物語。
そこには「空の境界」の10年後の物語が語られ、
彼らと彼女たちの辿り着いた場所が描かれていた。
そして満を持して劇場版アニメ化が発表され、
作品を愛したスタッフが再び結集する。
そこには劇場版「空の境界」で実力を発揮した
若手スタッフも新たに加わっていた。
アニメから生まれた小説が、再びアニメになる。
満と凋、正と邪、善と悪、悲と喜――その相反。
過去と未来、終わりと始まり――その空白。
物語をつくる11人はこの新たな「空の境界」を
どう受け継いでいくのか。
伝説は何度でも繰り返す。
伝説は語り継がれることで伝説となる。

INTERVIEW
黒桐幹也役

鈴村健一

「文句なしに美しいハッピーエンド」

NT 「終章 空の境界」以来の収録になりましたね。

鈴村 久しぶりだったんですけど、そんな感じが全然しなくて。「空の境界」ってつくってる人みんな作品のことが大好きなんですよ。すごく大変な思いをしてるのに、なんだか清々しい顔をしている(笑)。僕も待ちに待った収録だったので、うれしかったですね。

NT 「未来福音」はどんな話ですか？

鈴村 黒桐のシーンだけで言えば、未来視という特殊能力をもった女の子が、黒桐と出会う。冷静に考えると、2人が喫茶店で世間話をしてるだけなんですけど(笑)、彼女にとっては人生が一変するような経験になるんです。僕らの日常でも、誰かの発したなんでもないひと言で「あ、そうか！」といろんな謎が解ける瞬間ってよくありますよね。そういう稀有なドラマが、淡々としたなか独特な濃淡やリズムを持って描かれています。

NT それにしても、黒桐は相変わらずタラシですよね(笑)。

鈴村 まあ、女タラシというよりは「人間タラシ」ですけどね(笑)。あらためて見ると、黒桐は人としての理想を体現しているんです。どんなことでもあるがまま受け入れて、常に未来があると理解している。「空の境界」の登場人物はみんな、本当は黒桐みたいになりたいんだけど、分かっちゃいてもできないのが人間というもので。他のキャラクターが激流のように逆巻いていくなかで、大きな岩のようにどっしりと鎮座している。そんな[illegible]存在が黒桐なんです。

NT そういう性格は、役づくりにも反映されていますか？

鈴村 そうですね。最初から最後までブレがないし、全部スポンジみたいに吸収して、しかも[illegible]常にサラッとしている。お芝居の原点に近いキャラクターだし、今回の劇場版七部作のドラマはその集大成だと言えますね。

NT 「未来福音 extra chorus」はいかがでしたか？

鈴村 とにかく式がかわいいです(笑)。式って圧倒的に尖ってるけど、まっすぐで、常に腹は決まっている。そういう人がたまに見せる[illegible]。それを「デレ」というのなら、そりゃ応援したくなりますよ(笑)。[illegible]黒桐って[illegible]いろんなことにすごく鈍感なんです(笑)。そんな式と黒桐の関係をふまえて、また新しいステージがここで始まっています。文句のつけようがない、美しく[illegible]なエンディングですよ。

芽吹く才能

須藤友徳

菊池隼也

藤﨑静香

ふじさき・しずか／アニメーター。「空の境界」で……「Fate/Zero」で……としてステップアップした若手



思い入れを込めて、作品に魂を宿すufotableの作画陣

優しいまなざしでつづられた、3つのその後の物語

あおき えい

2つの【福音】the gospel

Eleven Godsends

未来福音



未来福音 extra chorus





Art Works



両儀未那

10歳でありながら物怖じを知らず、「お嬢様」と呼ばれることを嫌い、「未那郎」と呼ぶように周囲へ命令する。光溜が描いた絵本が好きという女の子らしい一面も。黒桐譲りの黒い髪を長く伸ばし、どこか叔母の鮮花を思わせるルックス

式と幹也のひとり娘

音楽

梶浦由記

「ひたすら未来に向かった作品」

この作品は「未来福音」というタイトルが示す通り、未来への希望を感じさせる作品です。原作小説を拝読した時、「この先にどんな運命が待っているかわからないけれど、とりあえず前に向かって歩んでいこう」という、今までの「空の境界」とは異なる、明るくてポジティブなメッセージ性を感じました。ですから作曲の際も、これまでの「空の境界」の匂いは残しつつも、旋律や選ぶ楽器を変えています。また、「未来福音」は3つの物語が交錯するオムニバス作品なので、作曲の際もそれを意識しました。3つのお話それぞれが結末を迎えるシーンで「はい終わり！」という感じにすると、それ以降のシーンへつながらなくなってしまうのでそこは気をつけて下さい、とご依頼を受けたので、曲調に盛り上がりをつくりながらも、余韻をもたせて次のシーンへ続く形を意識しました。「未来へと続いていく」という作品全体に流れるテーマにもイメージを合わせることができたと思います。

一方、「未来福音」の主題歌である「アレルヤ」は、かつてないほどのスピードで完成しました。制作途中の本編映像を見終えた時、頭の中に曲がストーンと降りてきちゃって。あわてて五線譜を取り出して浮かんだメロディを書き留めたんです。物語の登場人物達に語りかけるように始まる歌になりましたが、ある意味本編のエピローグ的な意味合いの強い歌になりました。「未来福音」を見ていただければ、きっと「明日はちょっと頑張ろう」という元気をもらえると思います。

劇場版「空の境界」未来福音 主題歌
「アレルヤ」
Kalafina

10月2日(水)発売 発売元 エスエムイーレコーズ 通常盤(SECL1390)、期間限定生産盤(SECL1391) [illegible] 「空の境界」特製ブックレット封入、「空の境界」イラストワイドキャップ仕様

音楽の【境界】a boundary

text by TERUYUKI FUKUNISHI

「空の境界」未来福音

武内崇 キャラクター原案

「未来福音-序」は、「空の境界 終章」(劇中は1999年3月)から10年後の物語。武内崇は10年後のキャラクターたちの姿を描いた



命の恩人にして、親分のひとり娘である未那に振り回されている。表面上は面倒くさそうに振舞うが、あちらこちらで真っ直ぐな性格をのぞかせる

未那のお目付け役？

瓶倉光溜

駆け出しの絵本作家。借金の代償として、両儀家周囲の雑用係の仕事を引き受けることに。わざとチンピラふうの振る舞いをしており、服装もいたってカジュアルでラフ



両儀式

両儀家の跡取りとして、[illegible]なった式。10年前は和服に革ジャンを合わせるようなアバンギャルドなコーディネイトをしていたが、しっとりと和服を着こなす大人の女性になった。その美貌は衰えることなく、人を圧倒する迫力は10年前と変わらない

10年後の式

Eleven Godsends

INTERVIEW

両儀式役

坂本真綾

「黒桐(コクトー)と式の日々はずっと続いていた」

NT 「空の境界 未来福音」を読んだときの感想をお聞かせください。

坂本 「空の境界」への思い入れがあまりに深かったので、その続編というのは、実は読みたいような読みたくないような気分だったんです。実際に拝読したら、奈須きのこさんの愛情を感じる内容で、すべてがうまくいった結末があって出演者としても読者としても満足感がありました。

NT 「未来福音」の一編は10年後の物語。大きな変化が描かれています。

坂本 式と黒桐の関係は、ある意味ファンタジーとも言える理想の形とも思えました。でも「未来福音」で描かれたその後は、現実的で子供もいる。式と黒桐だけでなく、周りの人も成長しているので、広い意味でハッピーエンドになっていたと思います。両儀家は重い宿命をもった一族で、その子供の未那はこれからいろいろな出来事に巻き込まれるかもしれない。でもこの子なら大丈夫と思わせてくれるような、聡明でかわいい娘でよかったです。

NT 「終章」の収録から久しぶりの両儀式の印象はいかがでしたか。

坂本 ふだんは特殊さが目立つ式と黒桐ですが「未来福音 extra chorus」では普通の男女の日々が描かれていました。奈須さんが"「空の境界」はボーイミーツガール"だとおっしゃっていたんですが、その意味があらためてよくわかりました。

NT 10年後の式も登場しますね。

坂本 少しだけ柔らかい感じになって、すてきな大人になったんだなと思いました。式は、1998年に16歳で、私と同学年の設定なんですよ。だから今の私の感覚でそのまま10年後の式を演じさせていただきました。

NT これで「空の境界」も完結です。坂本さんにとって「空の境界」とは？

坂本 式に出会うまで、私は強くクールな女性を演じたことがあまりなかったんです。いまではそういう役柄が多いですけど(笑)、私を開拓してくれた役が式でした。「第七章」の収録でやりきった手ごたえを一度感じて、「終章」は祭りのあとの後夜祭のような気持ちで臨んでいたので、今回の収録では最後のさみしさはなくて、一度終わったと思った作品にもう一度出会えるうれしさだけを感じていました。ぜひ、ご覧になる方は全巻を一度復習して、最後の物語を楽しんでください。

